

プレス発表文

平成16年11月 4日

社団法人 日本技術士会

平成16年度技術士第一次試験における出題ミスについて

平成16年10月11日に実施した平成16年度技術士第一次試験において、専門科目の環境部門の試験問題に出題ミスがあることが判明いたしました。

出題ミスがあったのは、専門科目の環境部門の問題で、30問出題中25問選択のうち「 - 11」(別紙)の設問であります。

当該問題の正答は でありますが、選択肢 は正しくは「ハイイヌツゲ、キャラボク、ヒナユズリハなどが.....」であるべきところを、「ハイイヌツゲ、キャラボク、ヒメユズリハなどが.....」としてしまったため、間違いとなり、結果として正答がなくなってしまったというものです。

このため、当該問題については出題ミスであるものと認め、受験者に不利にならない措置としてこの問題を選択した受験者全員(1,712名)に得点を与え、採点を行うこととしました。

なお、平成16年度技術士第一次試験の合格発表は平成17年1月14日に行われる予定ですが、受験者の皆様をはじめ、関係の皆様にも多大なご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げます。

つきましては、出題ミスの原因を調査・究明し、万全の措置を講じていく所存であります。

別紙

平成16年度技術士第一次試験試験問題

< 専門科目 > 『環境部門』

- 1 1 日本の生物相に関する次の記述のうち、最も適切なものを選べ。

我が国の植物相は、九州から北海道にかけて日華区系に属し、アジア・ヨーロッパとの共通種が多く見られる。

島嶼では大陸の移動に比べ、はるかに短期間のうちに、主に氷期と間氷期の繰り返しによる陸地の連続と分断が繰り返されるため、固有の生物相が形成されにくい。

日本海地域では冬の深雪が大きな気候的特徴で、枝が圧伏されて地に伏し、しばしば不定根を生じて枝がふえるハイイヌツゲ、キャラボク、ヒメユズリハなどが分布する。

我が国の維管束植物の種数は約 5,600 種で、同程度の面積を有すドイツとほぼ同様である。

我が国のブナを中心とする落葉樹林帯の植物相は、遠く離れた北アメリカ東部の植物相とよく似ている。それは、第三紀に発達した温帯性植物相が、その後の温暖化にともなって隔離されたためと考えられている。